



研究テーマ

1 スマートで効率的な放牧技術の開発

2 放牧家畜のストレス評価



安在 弘樹

あんざい ひろき
農学部
畜産草地科学科

助教

キーワード

繁殖雌牛、放牧肥育、酪農、乳牛、黒毛和種、ホルスタイン種、行動、モニタリング、草地、ドローン、リモートセンシング、遠隔測定技術、GPS、GIS、画像解析

特許情報・
共同研究・
応用分野など

応用分野：飼料生産、獣害対策

研究概要

動物福祉(アニマルウェルフェア)に配慮した家畜生産の1つとして、「放牧」に関する研究を行っています。

放牧生産では、動物は草地で生草を自由に食べることができることに加え、広いスペースで動物本来の行動をとり、十分な日光を浴びることもできるため、動物の福祉と健康を向上させることができます。また、低労力・低コストで未利用の土地資源を活用できることにも放牧の利点です。

1 スマートで効率的な放牧技術の開発

放牧では、草地内で利用される場所が動物によって決められるため、草の利用には空間的な偏りが生じます。利用が集中しやすい場所は草地の荒廃が進み、利用が少ない場所は、草質が低下し、草資源が有効に活用されないという問題があります。このような問題の状況を可視化し、解決に繋げていくために、GPSや加速度センサを用いた家畜の行動モニタリングとドローンを用いた草地のセンシングを行い、よりスマートで効率的な放牧管理技術を開発することを目指しています。



2 放牧家畜のストレス評価

放牧は家畜の福祉や健康を向上させる飼育方法である一方、以下のようなストレス要因があります。

- ①暑熱:暑熱ストレスは採食量の低下や行動の制限などから、生産性の低下に繋がります。
- ②社会性:家畜が群で飼われる場合には個体同士の社会性や社会的順位に関する問題が生じます。放牧では舎飼いと異なり餌の奪い合いによる影響は少ないですが、社会性の低い個体や下位の個体はストレスを受けます。



ホームページ

<https://www.miyazaki-u.ac.jp/ags/field/>

技術相談に応じられる関連分野

動物の行動モニタリング、ドローン画像解析

メッセージ

放牧に関することであれば、なんでもご連絡ください。